

式 辞

桜のつぼみも膨らみ始め、吹く風にも春の訪れを感じる今日のよき日、宇治田原町長 勝谷 聡一様を始め、多くの御来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席のもと、令和7年度 宇治田原町立維孝館中学校 卒業証書授与式を挙げてまいりますことに、高壇からではございますが、厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、70名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今、皆さんが手にした卒業証書は、中学校の全教育課程を修了した証です。皆さんは、79年の歴史と伝統ある本校で、地域の方々に温かく見守られながら、仲間と共に多くのことを学び、豊かな心と体を育んできました。

皆さんの入学後には、コロナ禍による生活制限も大幅に緩和され、3年間で多くの体験活動や行事を実施することができました。

今年度、皆さんは3年として素晴らしい力を発揮しました。5月の修学旅行では、「精励恪勤のスローガンのもと、みんなで協力し、楽しく、学びの多い3日間を過ごせました。

7月の大阪・関西万博での学習では、大屋根リングの大きさに驚くとともに、「未来の都市」パビリオンを見学し、「私たちは幸せになるために生きている」ことや「いのち輝く未来社会のデザイン」について考えました。

9月、文化発表会での、学年合唱や合唱コンクールでは、心を一つにした美しいハーモニーが響き渡り、大きな拍手が湧き上がりました。

10月の体育大会では、ブロックごとに工夫や改善を重ね、素晴らしい演技を作り上げました。演技後の達成感いっぱいの笑顔(スマイル)がとても印象的でした。

また、「宇治田原町の未来を自分たちで切り拓いていこう」という皆さんの思いは、12月の「中学生議会」や1月の「まちづくり学習」をとおして地域の皆様の心にも響く、素晴らしい発表となりました。3年として、リーダーシップを発揮し、1・2年を引っ張ってくれたことに感謝しています。

さあ、4月から皆さんは、新しいステージにたちます。今から「頑張りたいことや挑戦したいこと」を考えていると思います。

私の大切にしている言葉に室町時代に能楽を大成した、世阿弥さんがのこした「初心忘るべからず」という有名な言葉があります。よく知られている解釈は、「何事においても、始めた頃の真剣な気持ちを持ち続け、自分を向上させていかないといけない。」という意味です。

しかし、世阿弥さんは、この言葉にあと二つの意味を込めています。その一つが「その年齢にふさわしい知識や技能を身につけるためには、常に自分を初心者だと思い、努力を続けていかなければならない」という意味、もう一つが、「できたからもういい、完成したと思わず、その後も油断せず、さらに高い目標を設定し、できたことをさらに磨き続ける気持ちを持たないといけない」という意味だそうです。皆さん、これからの人生で何かを成そうとした時の「初心」を忘れず、全力で努力や挑戦をし続けて欲しいと願っています。

幕末の思想家であり教育者でもあった吉田松陰さんは、「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし、故に夢なき者に成功無し」という言葉をのこされました。

現在、将来の夢がはっきりしている人もいれば、まだ見つかっていない人もいるでしょう。しかし、夢は突然大きく見つかるものではありません。日々の小さな努力、いわば「スモール・ステップ」の積み重ねの中で、少しずつ形になっていくものです。今日できる小さな行動の積み重ねを一步一步して行ってください。

皆さん一人一人には、大きな可能性があります。どうか自分を信じ、夢を持ち、小さな一歩を大切にしながら、夢に向かって、自分らしく未来を切り拓いてください。

一人一人が、大切な命を与えてもらい、すばらしい力と優しい心を持った、かけがえのない人達です。どの人にも決してあなたの代わりはつとまりません。自分の魅力や個性を最大限に生かして、最高の自分になってください。助けが必要と感じれば、遠慮なく助けを求め一步一步自分のペースで着実に進んで行ってください。一人一人が豊かで笑顔いっぱいの幸せな人生を歩まれることを心から願っています。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。学校への多大なるご支援、ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

今日まで、陰に日なたにお子様を支えてこられたご苦労に敬意を表します。今後も、お子様を温かく見守り、勇気づけ、成長を後押ししていただきますよう、お願い申し上げます。

結びに、本日、維孝館中学校の卒業生となった70名の皆さんの今後の活躍と、この先の人生が笑顔(スマイル)に包まれた幸せなものになることを祈念して、式辞といたします。

令和8年3月13日
宇治田原町立維孝館中学校

校長 細矢 和彦